

平成 20 (2008) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日 : 2009 年 3 月 19 日

氏名 : 上村 未来

所属団体 : カンボジア市民フォーラム

受入先機関名(所在国) : アジア・ファンデーション カンボジア事務所(カンボジア王国)

研修期間(全体) : 2008 年 9 月 21 日 ~ 2009 年 3 月 10 日

研修テーマ : カンボジアにおける市民社会の強化 - プロジェクトの企画から運営までの能力向上を中心に -

全体研修目標 :

民主化支援分野のプロジェクト「Strengthening the Civil Society in Cambodia」に関わり、プロジェクトの企画、運営の手法を体得する。

プロジェクトにスタッフとして関わることで、紛争終結後の国家における民主化支援のあり方を学ぶ。

カンボジアに関わる国際 NGO との関係を築き、所属団体のネットワーク強化につなげると共に、同団体としての同国における民主化支援プロジェクト案を検討する。

具体的な研修内容 :

アジア・ファンデーション カンボジア事務所(以下、TAF CB)は、世界銀行のプロジェクトである Demand for Good Governance (DFGG) の第 2 コンポーネントである Non State Actors Component (NSAC) の運営を担っている(2009 年 4 月に開始予定)。スタディ員は TAF CB にてこのプロジェクトに携わった。具体的な研修内容は下記のとおりである。

1. カンボジア非政府組織のガバナンスに関する事前調査 (Mapping NSAs in Cambodia)**概要**

TAF CB は NSAC 実施にあたり、ドナーである世界銀行から “ Mapping NSAs in Cambodia ” という事前調査を課されていた。この調査では、カンボジアの市民社会を含む NSAs にはどのような種類のものがあるかを分類し、それらの現状と課題を把握することを目的としている。また、同調査では特に NSAs のガバナンスに焦点を当てており、その調査結果は、DFGG/ NSAs プロジェクトをよりカンボジアの現状に即したものにデザインするために反映させるとのことである。

内容

- 市民社会全体に関する文献収集と要約

同調査の初期段階としてスタディ員が担ったのは、カンボジアのNSAs全体、特にカンボジアの市民社会の現状と課題を把握するため、それに関連するブック・レビュー作成（文献収集とその要旨作成）であった。

添付書類「提出書類 081008」「提出書類 081103」を参照。

■ カンボジアの伝統組織と開発プロジェクトに関する文献収集と要約

同調査はカンボジアのNSAsを、NGOs、Traditional Associations、Community based organizations、Trade unions、Think tank、Professional organization、Private organizationsの7つに暫定的に分類している。スタディ員はこの中でカンボジアの伝統組織についての事前調査を主に担当し、関連する文献を収集してその要約を作成し、モデルとなるケースを選定した。

添付書類「提出書類 090113」を参照。

■ ケース・スタディーの選定とインタビューの実施（本部およびプロジェクト地にて）

同調査は当初、上記7種類のNSAsからモデル・ケースとなる各2団体を選定し、インタビューを実施する計画であった。しかし、カンボジアには上記7種類のうち に関しては多くは存在せず、それらを探す資料も限られていたため、インタビュー対象は各1団体とし、その他の種類の部分のケースを増やすといった具体的に数の調整をおこなった。スタディ員はこのインタビューにも同行したが、時間の制約上全てには参加できなかった。

2. グッド・ガバナンス プロジェクトに関連するカンボジアローカル NGO のデータベース作成

概要

DFGG/NSACの実施にあたり、アジア・ファンデーションではより多くの団体にそのプロジェクトについて知ってもらうため、コンタクト・リストを作成する必要があり、スタディ員がこの作成を担った。DFGG/NSACのフォーカスエリアは、Public service delivery at local level、Public finance、Natural resource、Private sector、Mediaの5つである。これらに関連するプロジェクトを実施している現地の団体を探し、コンタクト・リストを作成した。使用した主な資料は、カンボジアのネットワーク NGO であるCCC（Cooperation Committee for Cambodia）が発行するNGOダイレクトリー、同じくネットワーク NGO のNGO Forum on Cambodiaのメンバーリスト、および世界銀行主催のガバナンスに関する会議出席者リストなどである。

研修の成果：

DFGG/NSACは当初、スタディ員の研修期間初期に始まる予定であった。しかし、手続き的な問題などから研修期間中には始まらず、実際の運営状況を見ることができなかったため、全体研修目標に掲げていた「プロジェクトの運営」という点で得られたものは多くない。だが、「プロジェクトの企画」ということについては、以下の学びを得られた。つまり、プロジェクトの実施にあたり、より良いアウトリーチ方法を採用するため、事前調査などの様々な工夫がなされていること。また、国際機関がドナーで現地政府をカウンターパートとするプロジェクトでは、手続き的に複雑な点や様々な制

約があるため実施に漕ぎ着けるのが困難であり、それらを乗り越えるための高度な交渉能力が要されることなどである。

次に、全体研修目標の であった「民主化支援のあり方」についてである。スタディ員が携わったプロジェクトはガバナンスの領域における民主的制度の構築をサポートするものであった。ここから学んだことは、民主化支援には様々な形態があり、またどのセクターにも適用できる、またはすべきものであるということである。しかし、こうした支援の形は概念としては理解できるものの、実際には見えにくく、現地 NGO にとっても難しいようであった。

スタディ員が所属するカンボジア市民フォーラムは、これまで主に現地 NGO と協力、協働してきたが国際 NGO との関わりは希薄であった。今回のスタディ・プログラムでは、アジア・ファンデーションという国際 NGO で長期に携わったことによって、新たな領域での人脈を構築することができた。またスタディ員は、研修期間中に語学研修も受講し、カンボジア人スタッフの方たちとは現地の言語でコミュニケーションをとる努力をしたことなどから、受け入れ団体において良い人間関係が築けたのではないかと思う。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

スタディ員の所属団体であるカンボジア市民フォーラムは、NGO・個人が関わるネットワーク型 NGO であり、日本およびカンボジアに会の運営メンバーである世話人がいる。今回のスタディ・プログラムではスタディ員がカンボジア現地に長期で滞在したことから、現地にいる世話人とも定期的集まり、本研修プログラムの内容をフィードバックしたり、情報交換したりするなどができた。今後も、こうした集まりは積極的に開催し、本プログラムでの学びを共有していきたい。

また、今回のスタディ・プログラムを通じてカンボジアにおいて広げることができた人脈は、今後も定期的に訪問するなどして関係を強化し、所属団体のネットワークを拡充させていきたいと思う。より具体的には、今後所属団体が主催する国際会議やシンポジウムにおいて、そうした人脈を利用して意見交換を行ったりゲストを招聘するなど検討していきたい。

以上